

「見る」「見える」それが安全運転の第一歩

①「見る」「見える」ことの大切さを周知しよう

- ライトの点灯時間を指示しておこう
- フロントガラスの曇りを防止しよう

②加齢による身体機能の低下を確認しよう

- 運転者に眼科検診の受診を勧めよう



ライト点灯時間を指示しておこう

秋も深まる十一月は、日々と日没が早くなります。薄暮時は人や物が見えにくくなるうえ、帰宅者や買物をする人が増えることから、事故の危険が高まります。

歩行者や自転車の見落としを防止、また自車が見落とされないようにするには、早めのライト点灯が有効です。しかし、早めのライト点灯を呼び掛けても、「まだ、しっかり見えているので大丈夫」などと考える運転者も少なくありません。

そこで、ライトの点灯時間を具体的に決めて、運転者に指示しておきましょう。

愛知県では「ライト・オン運動」を推進しており、日没前の約1時間前からのライト点灯を呼び掛けている（十一月から一月にかけては、午後四時のライト点灯を推奨）。

事業所でもこの運動に応じ、午後四時にはライトを点灯するように運転者に指導しましょう。

フロントガラスが曇ったときの対処法を指導しておこう

運転中、フロントガラスが曇って、慌てたことはありませんか。

この時期は、寒い外気と暖かい車内の温度・湿度の差が大きくなり、フロントガラスが曇りやすくなります。前方が曇って見えない状態での運転が危険なことは言うまでもありません。

このようなフロントガラスの曇りは「エアフロスター」を使うことで簡単に解消できるので、使い方を周知しておきましょう。

くわえて、フロントガラスをこまめに拭く、曇り止めを使用するといった対策を講じて、常に視界をしっかりと確保するよう指導してください。

運転者へ眼科検診の受診を勧めよう

視力は加齢とともに低下し、五十代を過ぎると低下の度合いが大きくなるといわれており、免許を更新する数年で視力低下が大幅に進むこともあります。

とくに緑内障（視野のなかに見えない部分ができ、それが徐々に広がり、やがて失明する病気）は、自覚症状がほとんどないことから、治療が遅れるケースが多々あります。

運転中は情報の約九十％を視覚から得ているといわれています。しっかりと「見える」ことは、安全運転の確保に非常に重要です。

運転者に対して、健康診断の機会などをとらえて定期的に眼科検診を受診するよう呼び掛けておきましょう。